

就任挨拶

副会長

上ノ山 智史



みなさんこんにちは。積水化学の上ノ山でございます。どうぞよろしくお願いたします。この度、副会長を務めさせて頂くにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

私は入社してから一貫して研究開発、R&Dに携わって参りました。R&Dが昨今大変難しくなっていると実感しておりますが、皆さんの会社では如何でしょうか？ 元気に畧々と進んでいますでしょうか？

R&Dの成果が何故なかなか出にくくなってきているのか、その理由を私なりにいくつか挙げてみますと、まず一点目には50年前から20年前にかけてめざましく技術がグローイングし、やればできた時代に比べますと相対的に今は技術が飽和してきているという問題。

二点目には最近お客さんの要求スペックが本当に厳しくなっていて、そんな簡単に、短期間にお客さんの要求をすべて満足するものを作ることができず、凄い時間と労力がかかってしまうという品質の高度化の問題。そして三点目、これが何より悲しいのですが、何故かどの企業もよってたかって同じことを同じように開発しようとする、いわゆる「同質の過当競争」を繰り返しているという問題。

そしてこのような問題によってR&Dがうまくいかないことに加えて、最近R&D全体が疲弊してきているのではないかということも気になることとしてあげることができます。

じゃあR&Dをどうすれば良いか、これはなかなか難しい問題です。しかし一つだけ言えることとしましては、少なくとも今までと同じようなR&Dのやり方をしていたのでは、今まで以上に成果は出にくいというのは間違いないと思います。

今までと違う大胆な工夫をどうするかが求められていて、そういう意味ではR&Dのマネジメントが大変重要だと認識しています。

そういうR&Dの状況を踏まえまして、知的財産に対する想いを少し述べさせて頂きたいのですが、実はR&Dサイドから見ますと、知的財産は、会社の中では唯一の理解者であり、力強い友達だと認識しております。

R&Dが難しくなればなるほど、孤独で悩めば悩むほど、知的財産の方からR&Dの中まで入り込んで、しっかりR&Dを支えて頂きたいと思ひますし、R&D同様、知的財産も今まで以上にR&Dと強調して、進め方の工夫をしていくことが大変重要になってきているのだろうと感じております。

私は知的財産の専門家ではありませんが、R&Dの立場から知的財産の重要性は身にしみて理解しております。副会長という重責ではありますが、何とか精一杯務めさせて頂きたく思っておりますので、どうか皆様方のご指導、ご協力よろしくお願申し上げます。